

University
Current
Review

ISSN 0288-1748 2023(令和5)年09月20日発行【隔月刊】

[特集]
多様化をみせる寄付金プロジェクト

大学時報

NO.412
2023. **09**



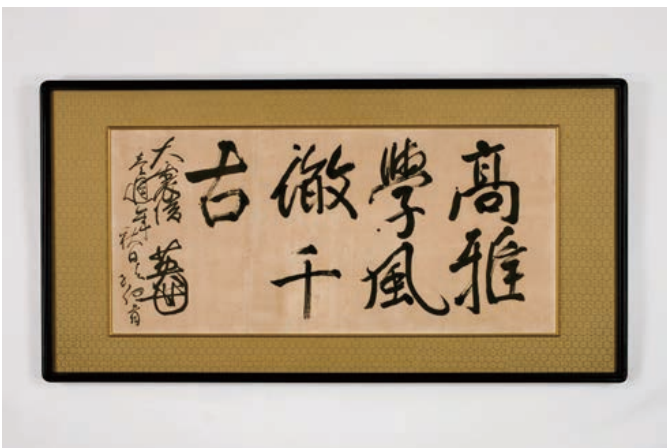
東京歯科大学



小幡式歯科治療椅子



「保歯新論」(上下、有新堂、1881年)高山紀齋／著



扁額(高雅学風徹千古)野口英世／書



高山銅像前の血脇先生と野口博士

日本の歯科医学を牽引してきた証たる史料

東京歯科大学は、わが国で最も伝統のある歯科大学である。1890年に本学創立者である高山紀齋先生が、東京・芝区伊皿子町（現在の港区三田4丁目）に、わが国初の歯科医学教育機関「高山歯科医学院」を設立したのが、東京歯科大学のはじまりである。

千葉校舎図書館に併設された東京歯科大学史料室には、創立130有余年の歴史を有する本学に関する史料の他、歯科医学の発展に関連した歴史的な貴重書、貴重史料を展示している。

高山先生の代表的著作である『保齒新論』（有新堂1881年）は、高山先生の先進的な考えに基づいて著述され、英米の歯科教科書を翻訳した歯科衛生書である。

小幡式歯科治療椅子は本邦歯科医の鼻祖である小幡英之助先生が創案し、1875年以来愛用した歯科用治療椅子である。本学にはご遺族

により、1915年に寄贈された。

本学建学者の血脇守之助先生は、会津若松から上京してきた野口英世博士を、物心両面から支えて世界的な研究者に育てた功労者である。そのような二人の親しい間柄を示す史料として、関東大震災の翌年（1924年）に血脇先生に贈られた扁額がある。扁額には、関東大震災の被害に遭い、校舎を失った血脇先生、そして本学の学生・教職員に対して、「高雅で気高い学風は、決して失われることなく、永遠に続くであろう」という励ましの言葉が書かれており、当時を偲ぶ貴重な史料として、後世に残すべく展示している。

表紙：クリ

ブナ科クリ属の総称。雄花と雌花の別があり、雌花は総苞(そうほう)と呼ばれる変形した葉に包まれています。これが成長して栗の実のイガになります。イガは成熟すると裂け目が生じて落果し、中からつややかな栗の実が覗きます。口を開けて笑っているようなその様を「栗が笑む」と言い表します。

*表紙デザインでは教育・成長・向上を植物になぞらえ、1年ごとにさまざまな種・葉・花・実を紹介します。今年度は実のシリーズです。

86

寄稿「私大連フォーラム2022×大学時報連動企画」

社会共創活動による教育効果について

—コイズミ物流株式会社との取り組みを通じて— 田中康仁

寄稿「私大連フォーラム2022×大学時報連動企画」

地域文化をリノベーションする教育実践 齋藤知明

私の授業実践〜教育現場の最前線から〜

教壇に立つてわかる教えることの難しさ 今村圭

明日への試み 京都橘大学総合心理学部

心と行動を起点として社会の「？」を解き明かす 柴田利男

加盟校の幸福度ランキングアップ《フードロスと大学編》

フードロスが生み出す新たな価値 小谷広美

「フードドライブ@JWU」実施と今後の展望 宮崎あかね

ソーシャル・アクションをキャンパスから
—持続可能な社会の創り手を育む大学— 永田佳之

クローズアップ・インタビュー

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン事務局長 東梅貞義さんに聞く (聞き手)川島葵

新会員代表者紹介

皇學館大学／宮城学院女子大学／流通科学大学／天理大学／東京女子医科大学

新学長紹介

昭和女子大学

執筆者・出席者の紹介(掲載順)

121 私大連ニュース

122 編集後記

文化が交差し、出会う場へ。



東松山・板橋。2つのキャンパス





大東文化大学

真ん中に文化がある。

異なる文化が交わることで、
新しい文化が生まれるから。

創立から 100 年。大東文化大学は、ますます
地域・領域・時代を超えて、多彩な文化が交わり、
出会う場所へ。

さあ、無限の可能性が広がるこのステージで。
みんなとコラボし、歴史と文化と未来をつなげて、
あなたの文化を創り上げよう。



大東文化大学の前身校である大東文化学院は、1923（大正12）年9月20日に設立認可を受けて、東京麹町区富士見町6丁目16番に開校した。



ビアトリクス・ポターTM 資料館

TM & © FW & Co., 2023

文化のコラボ、しよう。



まんなか 学部

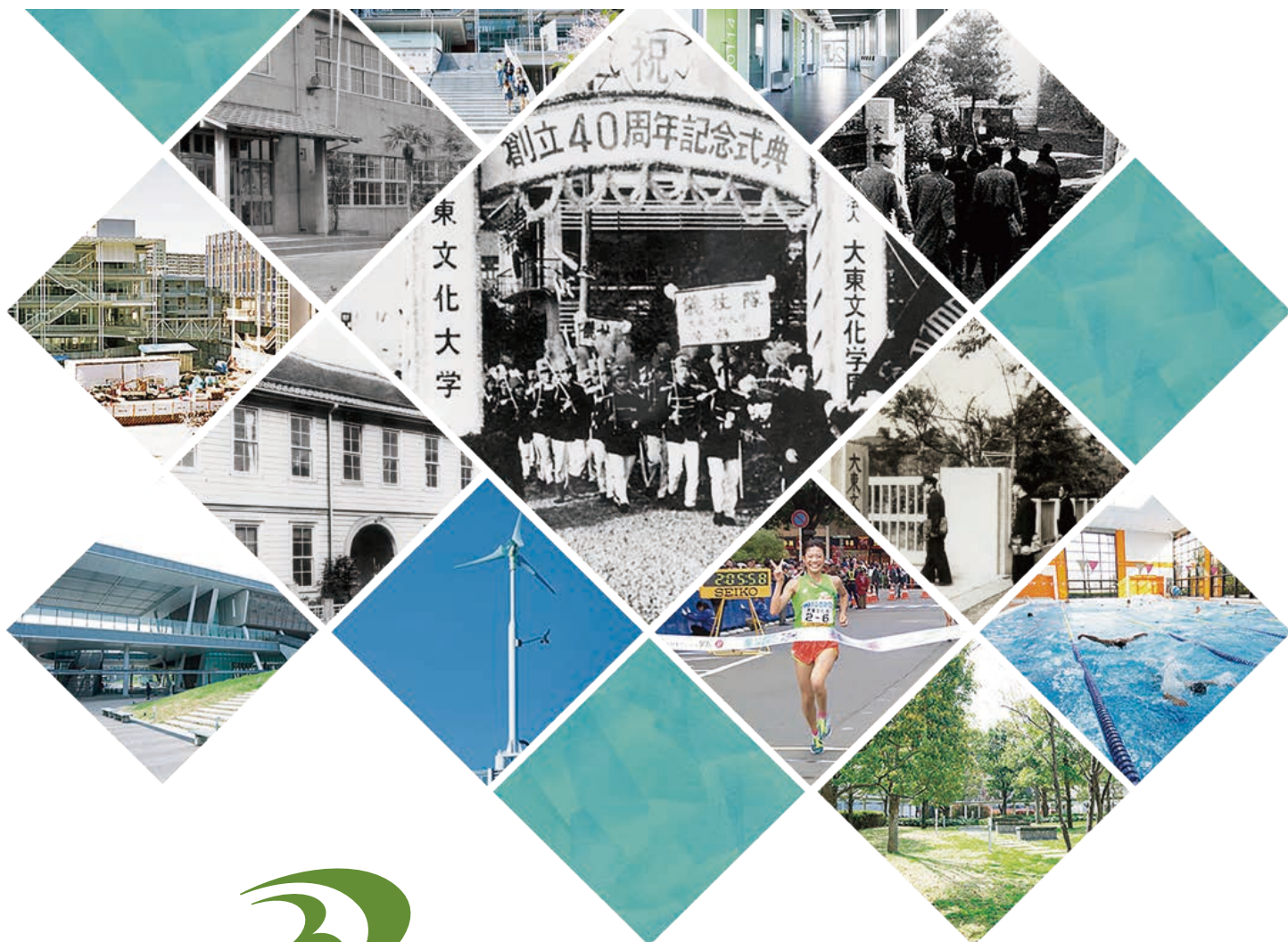
文化が交差し、出会う場へ。

大東文化大学は、創立以来、漢学をはじめとする
様々な文化との出会いを通じて社会を豊かにする
ことを目指してきました。

文化と向き合って 100 年。地域・領域・時代を超
えた多彩な文化が交差し、出会う場へ。

今日も新しい価値が生まれている。

その真ん中には、いつも、大東文化大学がいます。



☆大東文化大学 板橋キャンパス

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

☆大東文化大学 東松山キャンパス

〒335-8501 埼玉県東松山市岩殿 560



UNIVERSITY
ACCREDITED
2017.4~2024.3

University Current Review

大学時報

2023.09 / NO.412



異なる文化が
交わることで、
新しい文化が生まれる

高橋進 大東文化大学学長

自らの文化を大切にし、多様な文化を受け入れ、新たな価値の創造をとおして社会を豊かにすることはすべての大学の使命であろう。そしてこれからも、文化を支える原動力である「知を追求する高揚感」、「新しい気付きと感激」、「既存の知識と新しい知識との融合によって生まれる知見への喜び」などに溢れ、多彩な文化の交差点が存在する学び舎を目指し、各大学が切磋琢磨する。それでこそ、大学の存在価値が具現化されるに違いない。

本来のリベラルアーツとは —ノートルダム清心女子大学の取り組み—

津田 葵 ノートルダム清心女子大学学長

1. 修道女会とノートルダム清心女子大学

ノートルダム清心女子大学の歴史は、設立母体であるナミユール・ノートルダム修道女会のアメリカ人宣教師6名が、女子教育に従事するために来日した1924年にさかのぼる。

同修道女会は、フランス革命後のフランスで1804年に設立されたのち、ヨーロッパ、北アメリカに活動を広げ、さらに長年にわたってアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどで開発途上国支援に携わってきた。2001年には国際連合に諮問する資格をもつNGOとして認められ、国連にオフィスを有し、SDGsの策定にも、とくに女子教育・移民女性支援面で中心的に関わってきた。現在、5大陸で1090余名の修道女会会員が活躍している。日本では修道女会を母体

として学校法人ノートルダム清心学園が、岡山、倉敷、広島において幼稚園から大学・大学院まで各学校を運営してきた。また、同じ建学の精神を掲げている姉妹校として新潟清心女子中学・高等学校があげられる。

ノートルダム清心女子大学は、1949年に岡山の地に設立された。初代・第2代学長のアメリカ人シスターは、日本における女性の社会進出に熱心で、最初から4年制の女子大学を設立した。そこで、最先端の英語教育とアメリカ流のリベラルアーツ教育を実践し、中四国から多くの女子を集め、現在に至る本学の基盤をつくり上げたのである。

2. リベラルアーツ教育とは

本来、リベラルアーツ教育とは、社会のリーダーを育成

することを目的に、少人数の学生に対して教員が対話的に行う総合的で質の高い教育を意味している。各地域・各分野でリーダーとして認められるよう、理系・文系におよぶ幅広い知識・技術と、対話・交渉の力とを育むものであった。

教員が学生一人一人を把握して一対一で対話するような機会は、大きな大学ではほとんどないかもしれない。しかし、学生と教員が人格を認め合い、対話し議論することこそ、リベラルアーツ教育の基本だと言える。そのためには、学生数を2〜3000人規模に抑えるのはとても重要なことである。さもなくば教員が一人一人の学生を把握して丁寧に向き合うことはまったく不可能になる。



大学聖堂

実際、「全米リベラルアーツカレッジ・ランキング」をみれば、例外なく1500〜3000人規模の大学ばかりだということがわかるだろう。本学では、すべての学生に教員が一人ずつ付いて大学生生活全般の相談に応じるアドバイザー制度を実施しているが、それが可能なのも学生規模を意図的に抑えているからに他ならない。

アメリカではリベラルアーツの女子大学が、女性の政治家や起業家、企業や非営利組織の女性リーダーを数多く輩出してきた。本学でも「教える者を教える」という理念に基づき、全学科で教職資格を取得可能にすることで、これまで県下小・中・高等学校の女性教員の多くを養成してきた。就職率も全国屈指の高さである。本来のリベラルアーツ教育は、それ自体、質の高いキャリア教育となるわけである。

本学は、リベラルアーツのなかでも、とくに儀式やコミュニケーションを大切にしているカトリック・リベラルアーツに基づく大学である。具体的には、入学宣誓式にはじまり、4年生の5月には学士候補生対象のキャップ・アンド・ガウン授与式、翌3月には卒業予定学生対象のフード授与式が実施され、卒業証書・学位記授与式を迎える。それらは第

1回卒業式から70年以上、一度も途切れず続いてきた。メディアを通して地域でもよく知られているし、建学の精神を、文字だけによらず、体得する仕組みとして外部評価等でも高く評価されている。

一人一人を大切にするアドバイザー制度、そしてコミュニケーション意識や理念理解を深める儀式の実践などは、たとえば本学の極めて低い退学率や高い就職率、卒業時アンケートでの満足度の高さ、また同窓会ネットワークの全国への広がりなどにつながっているとと言える。

3. 知の統合とリーダーシップ

本学は文学部と人間生活学部の2学部から成り、文学部は英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科から、また人間生活学部は人間生活学科、児童学科、食品栄養学科からそれぞれ構成されている(現在、国際文化と情報デザインの学部学科を設置構想中である)。人文学、社会科学、さらに理系にまで及ぶ多様な学科を擁しているが、本学のカリキュラム編成のベースにあるのは、リベラルアーツ教育の理念である「知の全人的統合」をはかるといふ考え方である。

理系文系問わず本学のすべての学科で、卒業論文が必須になっているのは、その執筆過程が4年間の学びの統合につながるからである。そのうえで学科の学びをへ包み込むものとして、(通常は専門教育の前段として考えられがちな)全学共通科目が位置付けられていることは、本学の特徴だと言える。全学年対象の学科横断的な演習科目やアクティブ・ラーニング型授業が開講され、実際に3・4年生が多く受講しているのは、へ社会のリーダーを育成するための対話的・総合的で質の高い教育へというリベラルアーツ教育の理念が学生に最後まで行き届くことを本学が重視していることの現れである。

また、カリキュラムとは別に、学生の職業意識やリーダーシップを育む学内ワークスタディ制度、「学生職員」の取り組みも本学ならではのものかもしれない。学内ワークスタディはアメリカのリベラルアーツ大学でみられる制度で、授業補助を行うSA、儀式やオリエンテーション、オープンキャンパス、大学広報などを、学生が臨時職員として担当するものである。さらに地域連携やSDGs推進に学生のアイデアや発想を生かすために、企画段階から参画する「学生職員」の取り組みも始めている。

4. SDGsの達成へ

カトリック・リベラルアーツ教育の特徴は、社会正義の追求にあると言える。全世界的な課題である気候変動問題や人権・貧困問題を解決することの重要性は、ローマ教皇も正式に公表されている通りである。本学もまた国連「2030アジェンダ」すなわちSDGsの推進に取り組んできた。

本学におけるSDGsの取り組みには、3つの特徴がある。

1つ目は、設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会(国連オフィス)との連携と、そのSDGs理解の継承である。長年、開発途上国支援に取り組み、SDGs策定に関わってきた修道女会のSDGs理解と実践は、本学におけるSDGsの取り組みすべての基盤・見本になっている。

2つ目の特徴は、SDG5(すべての女性のエンパワメントとジェンダー平等)を核とした教育と組織づくりである。女子大のすべての授業・課外活動は、女子学生のエンパワメントのために存在している。たとえばゼミはすべて女性リーダーによって進められるが、それは共学大学ではないことだろう。また本学では正規教員の半分が女性であり、管理職・経営陣の半分も女性である。この状況は世

界的にも珍しいが、それによって本格的なロールモデルを女子学生に提供することができるのである。

授業科目としても、社会的なサステナビリティ(環境問題と人権・貧困)について、キリスト教をベースに学ぶ全1年生必修の授業「人間論」や、海外のハンセン病施設や東日本大震災被災地でのボランティアにも取り組んできた「ボランティア実践」、模擬国連に参加する授業、ESD(持続可能な開発のための教育)の授業、女性のキャリアに関する授業などが用意されている。

3つ目の特徴は、2019年度設立の地域連携・SDGs推進センターが中心となって、全在学生にSDGsの推進機会と支援を組織的に提供していることである。様々な取り組みがあるが、岡山県と連携して県の迷惑行為防止条例の改正を進めたり、男女共同参画基本計画に学生が政策提言したりする取り組みも含まれている——修道女会シスターもSDGs達成に資するとしてそれらを高く評価してくださった。これらの甲斐あって本学は2020年に「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」の創設28大学に選ばれた。目下、「国連SDGs入門」授業を共同構築し、実践しているところである。

今後も、本学は、SDG5「すべての女性のエンパワメントとジェンダー平等」を軸としつつ、その他のSDGs、すなわち気候変動・環境問題や人権擁護、貧困支援などにも取り組んでいく。脱炭素・脱プラスチック社会の形成はグローバルな課題であり、外国人労働者の人権擁護、子どももの貧困などは日本社会全体に関わる課題であろう。本学では、それらの課題に、岡山・瀬戸内ローカルの課題と歴史（ハンセン病や豊島問題、水島公害、また「医療先進県」「晴れの国」と呼ばれる歴史や地域特性）をふまえつつ、取り組むことで、独自のグローバルなSDGs実践／サステナビリティ教育を進めていきたいと考えている。

5. 修道女会が注目する近年の国際的な潮流・活動

最後に、本学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会が近年、重視している国際連合の取り組みについていくつか触れておきたい。

まずは当然、気候変動問題や世界中の生態系劣化を防止するための取り組みである。またコロナ禍後の世界の回復に向けての諸活動も重要だと言える。特に社会の周縁に残された人々のニーズに敏感に対応する活動として、女

性、子ども、マイノリティグループ、若者、障がい者などに支援を行っている。

世界の人身売買撲滅や児童労働に反対する取り組みも大切だろう。前者には、「被害者の声が道を切り開く」をモットーとして人身売買の被害者と生存者の声に耳を傾け、そこから学ぶこと、そしてそういった犯罪を防ぐための効果的な対策、被害を被った方々へのリハビリテーションへの道のりの支援などが含まれている。

このような課題に対処するために、修道女会は、国連の開発資金委員会、移民委員会、鉱業作業部会、社会開発委員会、宗教NGO委員会、女性の地位に関する委員会、人身売買阻止委員会、女子作業部会の各委員会に参加し、人権の保護、社会開発など国連が果たすことができる種々の活動を建設的に促進しようとしている。そしてこれらの国際的な活動を通して得られた知識や経験を世界各地の修道女たちが共有し、それらをいかにして能動的な行動へと駆り立てる知恵へと変えていけるかについて、修道女会の各ミッション地域で探り、追求しているところである。それらはいずれも、本学の、とくにSDGsに関わる今後の取り組みの、範となるものである。



大学外観